

2020年度 まちラボプロジェクト演習

「スポーツ」があるまちづくり：大学の施設を拠点としたスポーツプログラム・イベントで地域住民が集まる居場所を作る

演習担当教員：青木 通

メンバー 学生11名

2021年1月14日

目次

- 1.プロジェクトの活動内容
- 2.本来のプロジェクトの目的
- 3.今回行ったこと
4. 調査結果
 - (1)対象者の基本的属性
 - (2)健康に対する認識
 - (3)運動・スポーツの実施状況
 - (4)地域交流活動に関する認識
5. 総括
- 6.本プロジェクトの独創的な点
- 7.演習を終えての課題
- 8.今後の展望

1. 本来のプロジェクトの目的

日常生活の中にスポーツを取り入れた生活をすることの重要性

- ①同じ目的を持つことで仲間意識が生まれコミュニケーションが取りやすい
- ②世代間の差を埋めることが可能
- ③企業や事業主も参加することで地域活性化へと繋がる可能性

都市部地域におけるまちづくりを推進するためにスポーツをツールとしたイベント企画を実践し、活動拠点を明確にすることの有
用性とその効果を検証すること

2. 今回行ったこと

地域住民を対象とした、健康・スポーツや地域交流に関する実態調査

調査票

対象者：文京区に在住する20歳以上の成人

調査期間：12月下旬から1月上旬

調査の実施は、(株)NTTコムオンライに委託し、個人情報の保護など倫理的配慮について書面で提示し、同意を得たうえで行った。

3. 調査結果

(1)対象者の基本的属性

対象者：男性54名（50.0%） 女性54名（50.0%）

年齢階層：

「20歳以上、30歳未満」 6名（5.6%） 「30歳以上、40歳未満」 19名（17.6%）

「40歳以上、50歳未満」 29名（26.9%） 「50歳以上、60歳未満」 27名（25.0%）

「60歳以上、70歳未満」 17名（15.7%） 「70歳以上」 10名（9.3%）

居住エリア：「向丘」「後楽」を除く地域に在住

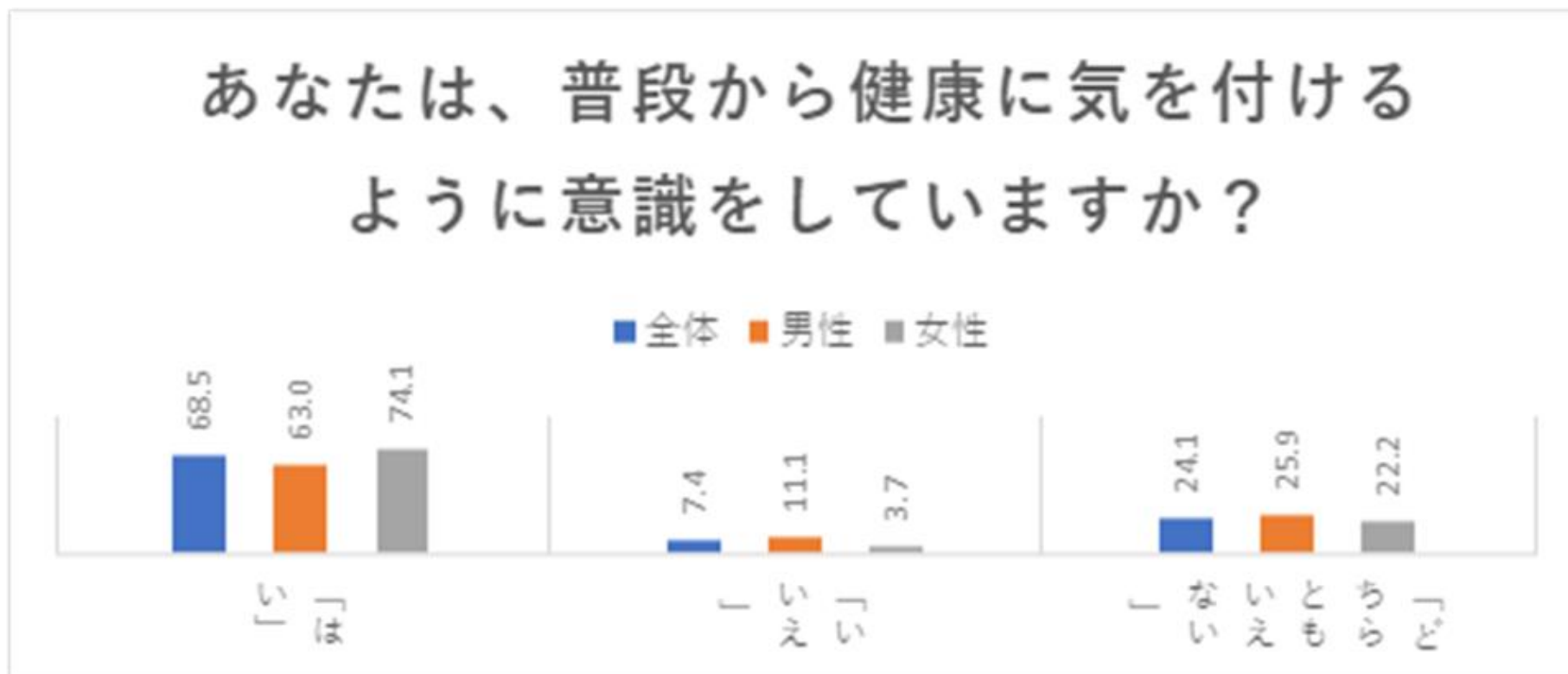
居住形態：「賃貸（マンション等）」 38.9% 「持ち家（マンション等）」 31.5%

家族構成：「単独世帯」（39.8%） 「夫婦と未婚の子供のみ」（25.9%）

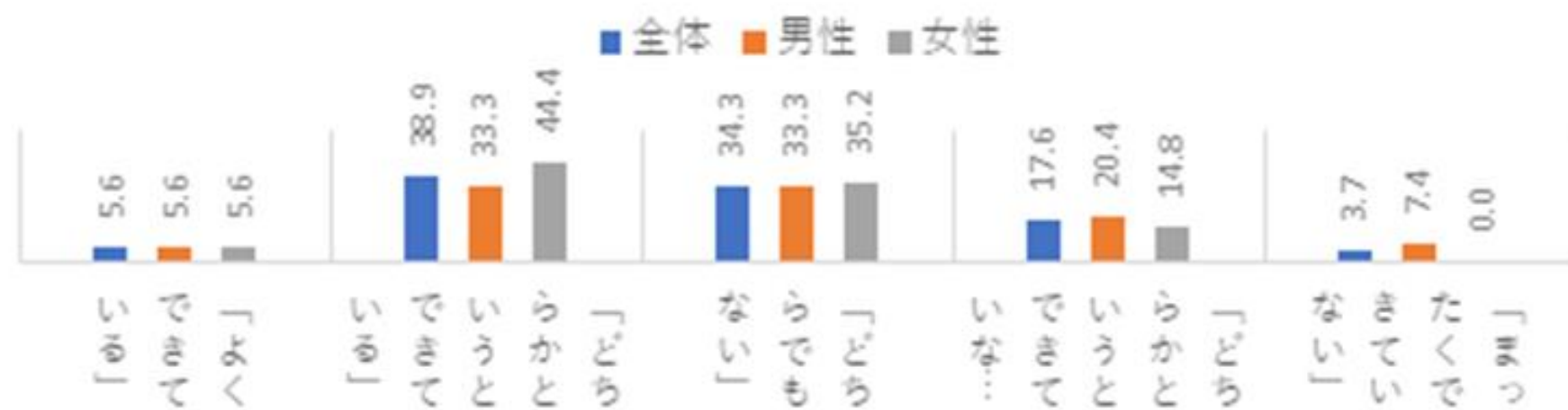
職業：「会社員・役員」（48.1%） 「専業主婦・専業主夫」（12.0%）

「無職・定年退職」（12.0%）

(2)健康に対する認識

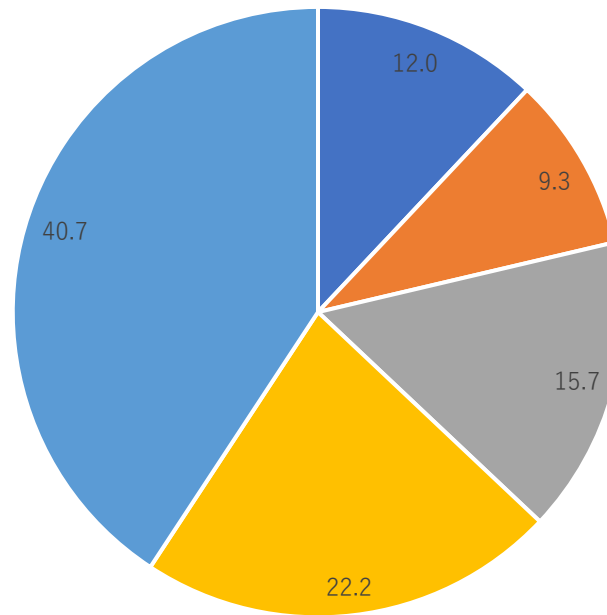


あなたは、健康に関する十分な情報を得ることができていると思いますか？



(3)運動・スポーツの実施状況

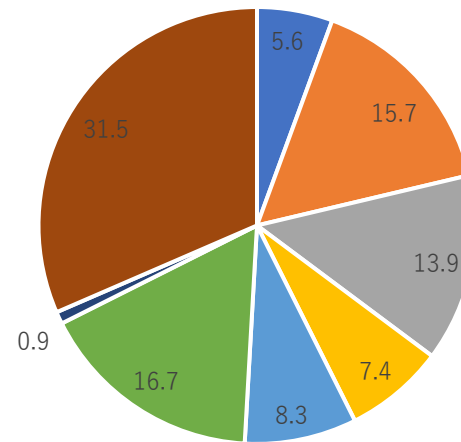
【実施状況（運動習慣者）】：あなたは、運動やスポーツを実践していますか？



■「かなりあてはまる」 ■「まああてはまる」 ■「どちらともいえない」 ■「あまりあてはまらない」 ■「全くあてはまらない」

(3)運動・スポーツの実施状況

【希望イベント】：居住エリア内で開催されたとしたら、参加したいと思うスポーツイベントはありますか？

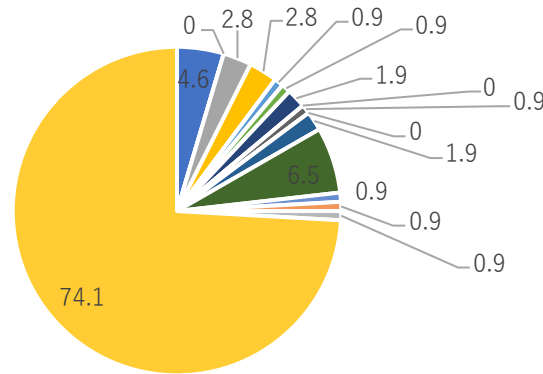


- 「ダーツやグラウンドゴルフなどのレクリエーションなスポーツ大会」
- 「オンラインによる筋力アップやダイエットなどのトレーニング教室」
- 「健康作りやスポーツ文化などの知識・教養講座」
- 「その他」

- 「オンラインによるストレッチ、ヨガなどの健康教室」
- 「テニスやバレーボールなど特定種目のスポーツ教室」
- 「居住エリア内の特性を生かしたウォーキング・ジョギングマップ作りとその体験会」
- 「どのような活動でも参加したいと思わない」

(4)地域交流活動に関する認識

【参加状況】：ここ一年間あたりで、あなたが最も参加した回数の多い地域交流活動は何ですか？

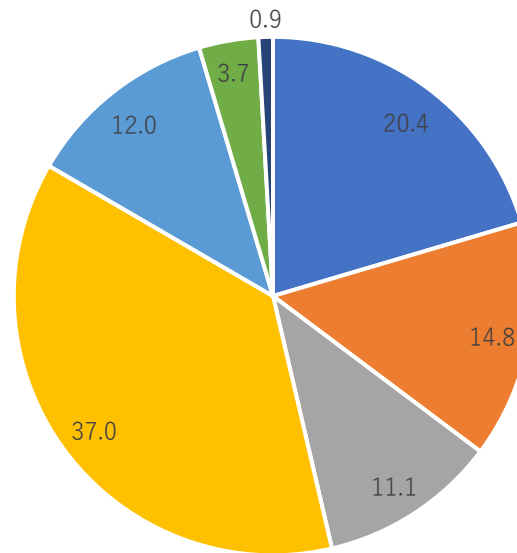


- 「祭りやイベントなどの地域交流活動」
- 「自治会・町内会など自治組織の運営活動」
- 「子どもやしつけや教育などの健全育成活動」
- 「交通安全活動」
- 「防災活動や避難訓練」
- 「子育て支援活動」
- 「商店街の活性化などまちづくり活動」
- 「その他」

- 「地域の伝統文化の継承・保存活動」
- 「環境美化やリサイクルなどのエコ活動」
- 「スポーツ教室やスポーツ大会などのスポーツ・健康づくり活動」
- 「防犯活動」
- 「高齢者や障がい者を支援する福祉活動」
- 「趣味や教養などの生涯学習活動」
- 「外国人との交流活動」
- 「何も参加したことがない」

(4)地域交流活動に関する認識

【地域交流の重要ポイント】 地域交流を促進するためにはどのようなことを重視する必要があると思いますか？



- 「行事やイベントのプログラムの充実」
- 「地域交流を促進する人材の確保や育成」
- 「人が集まる居場所やスペースの設置」
- 「行事やイベントなどの的確な情報提供」
- 「住民自治組織の活性化や組織化」
- 「特になし」
- 「その他」

4. 総括

調査結果より、「健康」に対する意識とニーズの高さを把握することができた。

運動・スポーツについては、ウォーキング・ジョギングなど比較的手軽な種目の実施状況が高く、そのイベント化に対するニーズを確認した。

地域交流活動については、地域や地域住民との関りをもつきっかけづくりになる可能性が示唆され、都市部における「健康・スポーツ」をツールにしたまちづくりの可能性が明らかになった。

5. 本プロジェクトの独創的な点

- 文京区に住んでいる地域住民の健康や地球コミュニティに感んずる認識を把握するために、一人ひとりが調査票の質問内容や選択肢を考えた事である。
- 例をあげると、選択肢について意見を交わした際は、健康観について質問した場合、一つの質問でも「美味しく飲食できること」「美味しく飲食できるか」「飲食できること」「飲食」の4種類の選択肢が話し合い中であがった。一つの質問に対する選択肢が豊富に回答者にとってが適切に感じるのか考え、数種類の候補の中から考えて統一した。
- このように、どのような選択肢にすれば回答者が回答しやすいか、回答者によって解釈の違いが起こらないかなど、正確な調査結果を得る為に何度も話し合いを重ねた。そして、厳選された質問項目と選択肢の調査票を作成した。

6. 演習を終えての課題

- 新型コロナウイルスの影響により、ダーツや健康プログラムを実施することが出来なくなってしまった。そのことにより、事例を調べることやアンケートという形になってしまい文京区でのフィールドワークが実現できなかった。
- またリモートでの作業だったため、プロジェクトメンバーとの連絡がとりづらくなり、作業の進み具合が悪くなってしまったことや1人1人の仕事量にバラツキが出てしまった。そのため1人1人が連絡をこまめに確認することや責任を持って取り組むことが課題である。

7. 今後の展望

- 調査により、「健康」に対する意識とニーズの高さを確認し、ウォーキングやジョギングなどの手軽に行うことが可能な運動の実査状況が良いことがわかった。その為、地域住民達が参加しやすいプログラムやイベントを考えていき、そのプログラムやイベントを実地可能な拠点の獲得が必要である。また、最終的には地域住民との交流を深め、互いに支え合うまちづくりを作っていきたい。
- しかし、現在世間では感染症が流行しているため、コロナ禍でも地域住民が安全に行う事が可能な運動・スポーツを考えることが必要である。安全なプログラムやイベントを考えていく為にも、プロジェクトに参加しているメンバーが自覚と責任を持ち、連絡を取り合うことが必要である。